

滋賀文教短期大学
自己点検・評価報告書
(国文学科・中間報告)

令和 3 年 9 月

【基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果】

[テーマ 基準Ⅰ-A 建学の精神]

[区分 基準Ⅰ-A-1 建学の精神を確立している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 建学の精神は短期大学の教育理念・理想を明確に示している。
- (2) 建学の精神は教育基本法に基づいた公共性を有している。
- (3) 建学の精神を学内外に表明している。
- (4) 建学の精神を学内において共有している。
- (5) 建学の精神を定期的に確認している。

<区分 基準Ⅰ-A-1 の現状および課題>

(a) 現状

建学の精神はホームページや学生便覧、学内掲示、大学案内、募集要項などを通して、学内外に表明している。

専任教員に対しては、年度当初の教授会において学長より建学の精神についての講話があり、共有と確認が行われている。また、入学式後の第二回学科会議においても、改めて建学の精神について確認を行っている。

非常勤講師については、年度当初の学科連絡会において建学の精神についての周知があり、理解が図られている。

学生に対しては、初年次教育の授業である「基礎力プログラムⅠ（初年次教育）」の第1回目で詳細に説明しており、理解を深めるようにしている。リアクションペーパーにおいて建学の精神や大学の沿革がよくわかったといったコメントが寄せられており、学生にも共有されているといえる。

受験生に対しては、学生募集要項や大学案内で周知している。入学予定者に対しては、例年「国文学科 入学前教育の案内」という冊子を作成し、その中に建学の精神を記載することで周知をはかっている。入学予定者やその保護者に早い段階で周知し、入学前登校日や入学式直後に説明することで、入学前から入学直後にかけて建学の精神の理解を進めている。

(b) 課題

次年度以降も建学の精神を定期的に確認するとともに、学内での共有及び学内外に表明していかなければならない。

◎秋学期取り組む事項

何を	誰が
・次年度「入学前教育の案内」の検討 および作成	入学前教育担当教員を中心とする学 科教員全員
・次年度当初の学科連絡会での周知	学科長

準備	
----	--

〔区分 基準Ⅰ-A-2 高等教育機関として地域・社会に貢献している。〕

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 地域・社会に向けた公開講座、生涯学習事業、正課授業の開放（リカレント教育を含む）等を実施している。
- (2) 地域・社会の地方公共団体、企業（等）、教育機関及び文化団体等と協定を締結するなど連携している。
- (3) 教職員及び学生がボランティア活動等を通じて地域・社会に貢献している。

<区分 基準Ⅰ-A-2 の現状および課題>

(a) 現状

例年、本学では地域・社会に向けた公開講座「湖国カルチャーセンター」の大学開放講座を実施している。国文学科関係の講座としても、「書道」「中国詩」「源氏物語」などの講座が開講され、国文学科の教員が担当してきた。今年度は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、対面での大学開放講座の開講は見送られたが、動画配信による講座が春学期・秋学期それぞれ2講座予定されており、国文学科の教員も作成予定である。

また、9月から始まる、びわ湖東北部地域連携協議会による「リフレッシュ講座」でも国文学科教員が関わる講座が4講座開講予定である。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の関係で、例年夏休みに実施している長浜図書館等での活動などの学生のボランティア活動も実施することができなかった。

滋賀県及び長浜市余呉町池原との協定締結に基づく「しがのふるさと支え合いプロジェクト」の「棚田の草刈りボランティア」も実施出来なかったが、余呉町池原とは春学期開講の2年生科目「基礎力プログラムⅢ」で連携を図ることができた。「基礎力プログラムⅢ」ではこれまでも、地域との関わりをテーマとして、中学校図書館でのボランティア活動などを行ってきたが、今年度は「余呉の地域活性化」を大テーマとし、春学期には、「余呉町について知る」をテーマとして掲げて、情報収集を行った。その際、余呉町からの要望もあって、できるだけ現地に足を運び、地域の方々と交流することを重視し、6班それぞれが2回ずつ現地を訪れ、また1回は全員で池原にある全長寺を訪れ余呉の民話伝説を語っていただいた。一方、余呉町からも本学に2回来ていただきお話を聞く機会や、成果発表を評価していただく機会を得ることができた。「余呉の地域活性化」については秋学期の「基礎力プログラムⅣ」に引き継がれる予定である。

その他の授業関連では、通年で開講されている1、2年生合同授業「くらしと地域」において、本学が長浜市から委託された研究事業「田村駅周辺空間活用事業」の「子育てしやすい、子どもが遊べる公共空間」をテーマとして長浜市都市計画課と連携した授業が行われている。

また、2年生春学期開講の「異文化コミュニケーション」では、本学と協力に関す

る連携協定を結んでいる特定非営利活動法人長浜市民国際交流協会と連携し、協会が主催するイベントに学生がボランティアとして参加し、また、学生が企画した「音楽交流会」を実施した。

(b) 課題

昨年度、今年度と新型コロナウイルス感染症の影響により、特に学生のボランティア活動が大きく制限されているが、従来からの課題であった授業でのボランティア活動以外のボランティアやインターンシップ等をカリキュラムの中でどのように位置づけて行くかということについては、来年度に向けて、インターンシップのカリキュラム化が進んでいる。このことは、今後さらに検討を進めていく課題であると同時に、このような状況の中でどのような活動が可能であるのかということを探索すること、今後の検討課題である。教職員の地域・社会への貢献活動にはオンラインの活用によるものも増えてきているが、オンラインのより有効な活用についても検討課題である。

◎秋学期取り組む事項

何を	誰が
・基礎力プログラムⅣ 余呉町との連携授業 ・長浜市との包括連携協定による、長浜市立図書館でのインターンシップ	対象：国文学科2年生 担当：「基礎力プログラムⅣ」担当教員 対象：司書課程履修中の1年生 担当：司書課程担当教員

[テーマ 基準Ⅰ-B 教育の効果]

[区分 基準Ⅰ-B-1 教育目的・目標を確立している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 学科・専攻課程の教育目的・目標を建学の精神に基づき確立している。
- (2) 学科・専攻課程の教育目的・目標を学内外に表明している。
- (3) 学科・専攻課程の教育目的・目標に基づく人材養成が地域・社会の要請に込れているか定期的に点検している。

<区分 基準Ⅰ-B-1 の現状および課題>

(a) 現状

国文学科の教育目的・目標は、本学の建学の精神である「「知育・徳育・体育」の鼎立と調和のとれた人間形成」に基づいて定められている。

建学の精神およびそれに基づいた学科の教育目的・目標を教員間で共有し、理解を深めるため、年度当初の学科会議において確認している。また非常勤講師を交えた年度当初の学科連絡会議においても共通理解を図っている。学科会議においては、共有・確認を行うなかで、点検も実施している。

学科の教育目的・目標は、本学のホームページや大学案内等で学内外に表明している。教職員や学生には、学長による入学式の式辞、年度当初の教授会、学科連絡会議、学生向けオリエンテーション等で、説明されている。その他、学生便覧への記載、研究室や各教室への掲示にて、常に周知している。

学生に対しての周知・理解については、学生向けオリエンテーションにおいて説明している。またより詳しくは、1年春学期開講の教養科目「基礎力プログラムⅠ（初年次教育）」の第1回目において、建学の精神などとともに学生便覧を用いて説明している。

入学予定者への周知に関しては、例年「国文学科 入学前教育の案内」という冊子を作成し、そこに建学の精神や教育目的・目標を記載している。入学予定者やその保護者に早い段階で周知し、入学前登校日や入学式直後に説明することで、入学前から入学直後にかけて建学の精神や学科の教育目的・目標の理解を図っている。今年度入学予定者に対しては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって登校日の行事を実施することができなかったため、オリエンテーションや「基礎力プログラムⅠ（初年次教育）」における説明によって入学後に補填した。

建学の精神と学科の教育目的・目標、それらに基づく3つのポリシー及び学習成果の相関関係を分かりやすく伝えるために、相関図や体系図を作成している。

教育目的・目標が達成できるような授業や学生支援を実践していくため、教員個人レベルでの定期的な点検として、学期ごとの授業アンケートの実施と、その結果をふまえた授業検討票の作成を行っている。専任教員個人レベルでの定期的な点検としては、それ以外にティーチング・ポートフォリオを作成し、大学ホームページで公開している。

以上の取組を向上させていくために、積極的に地域の意見も取り入れながら点検・評価を行っている。教育目的・目標に基づく人材養成が地域・社会の要請に込えているかどうかについては、地元長浜市との包括連携協定に基づく連携協議会において意見を聴取し、また同一法人内の高等学校や地域の高等学校からも意見をきいている。これらにより、教育目的・目標に基づく人材養成が地域・社会の要請に込えているかどうか定期的に点検を行っている。

(b) 課題

学科の教育目的・目標が適当なものかどうかを定期的に検証する必要がある。

2018年度に長浜市立図書館、長浜商工会議所、長浜青年会議所からの人材養成に関する意見聴取を行ったが、今後も数年に一度程度、定期的に地域社会の各方面から聴取を行う必要がある。

◎秋学期取り組む事項

何を	誰が
・教育目的・目標に基づく人材養成が 地域・社会の要請に込えているかの 点検	学科教員・教学企画室

〔区分 基準 I-B-2 学習成果 (Student Learning Outcomes) を定めている。〕

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 短期大学としての学習成果を建学の精神に基づき定めている。
- (2) 学科・専攻課程の学習成果を学科・専攻課程の教育目的・目標に基づき定めている。
- (3) 学習成果を学内外に表明している。
- (4) 学習成果を学校教育法の短期大学の規定に照らして、定期的に点検している。

<区分 基準 I-B-2 の現状および課題>

(a) 現状

国文学科の学習成果は、建学の精神である「「知育・徳育・体育」の鼎立と調和の取れた人間形成」及び教育目的である「本学の教育課程で身につけた幅広い知識と教養をもって社会で自立できる人材を養成すること」に基づき、六つの能力として明確に定められている。

「日本文学・文化及び日本語に関する知識」という学習成果は、専門性、知識・技能、日本語力を身につけることを目指し、教育目標である「日本文学・文化及び日本語についての幅広い知識と教養を身につける」に基づいている。

「考えや意見を発信できる力」という学習成果は、日本語力、表現力、思考力を身につけることを目指し、教育目標である「柔軟な思考力・対応力を身につける」および「豊かな表現力とコミュニケーション力を身につける」に基づいている。

「状況を把握できる基礎的な力」および「課題を解決するための基礎的な力」という学習成果は、課題発見力、課題解決力を身につけることを目指し、教育目標である「必要な情報を獲得・分析する力を身につける」および「課題を見つけ解決する力を身につける」に基づいている。

「他者と協働するための基礎的な力」および「自ら学び続ける意欲や態度」という学習成果は、主体性、協調性、社会性を身につけることを目指し、教育目標である「他者と協働して課題に取り組む力を身につける」および「自立した社会人として積極的に社会に参画できる主体性を身につける」に基づいている。

学科の学習成果は、本学ホームページや学生便覧への掲載等で学内外に表明し、改革支援部教学企画室により学科ごとに測定され、学科会議において定期的に点検されている。

(b) 課題

既存の司書資格に加え、新たな資格（認定絵本士、実践キャリア実務士）の位置付けを明確にし、学習成果の査定も考える必要がある。

◎秋学期取り組む事項

何を	誰が
----	----

・教育目的・目標に基づく学習成果の設定となっているかの点検	学科長、学科教員・教学企画室
-------------------------------	----------------

[区分 基準 I-B-3 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針（三つの方針）を一体的に策定し、公表している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 三つの方針を関連付けて一体的に定めている。
- (2) 三つの方針を組織的議論を重ねて策定している。
- (3) 三つの方針を踏まえた教育活動を行っている。
- (4) 三つの方針を学内外に表明している。

<区分 基準 I-B-3 の現状および課題>

(a) 現状

三つの方針については、それぞれを関連付けて一体的に定めている。建学の精神と学科の教育目的・目標、それらに基づく三つの方針及び学習成果の相関関係を伝えるため、相関図や体系図を作成し、「学生便覧」および「大学ホームページ」「大学案内パンフレット」において公表している。加えて、教育活動に従ってカリキュラム・マップ【カリキュラムと DP との対応関係一表】を作成し、DP と授業科目の一覧表を「学生便覧」および「シラバス」においても示している。

また、三つの方針の策定にあたっては、年度ごとに学科教員で見直しを図り、運営協議会、教授会での承認を経て決定している。

令和 4 年度の教育課程編成に向けて、教務・カリキュラム委員会、学科が中心となって三つの方針の策定に向けて検討を重ねている。

(b) 課題

令和 4 年度の教育課程編成に向けて、カリキュラム・ポリシーの検討、それに伴う新しい教育目標・ディプロマ・ポリシー・学習成果の議論・検討を行い、年内中に策定していかなければいけない。

◎秋学期取り組む事項

何を	誰が
・「学位授与の方針」(DP)「入学者受入れの方針」(AP) の検討・点検	学科長、学科教員・教学企画室

[テーマ 基準 I-C 内部質保証]

[区分 基準 I-C-1 自己点検・評価活動等の実施体制を確立し、内部質保証に取り組んでいる。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 自己点検・評価のための規程及び組織を整備している。
- (2) 定期的に自己点検・評価を行っている。
- (3) 定期的に自己点検・評価報告書等を公表している。
- (4) 自己点検・評価活動に全教職員が関与している。
- (5) 自己点検・評価活動に高等学校等の関係者の意見聴取を取り入れている。
- (6) 自己点検・評価の結果を改革・改善に活用している。

<区分 基準 I -C-1 の現状および課題>

(a) 現状

自己点検・評価委員会規定に基づき、委員会を設置し、学科教員も構成員として所属することで、情報の共有を図っている。また、自己点検・評価については、毎年半期ごとに中間報告、年度報告を実施することで常に見直しを行い、大学ホームページにて公開している。令和3年度は、8～9月にかけて、学科教員全員で春学期までの「自己点検・評価報告書」（中間報告）を作成し点検を行った。また、教員個人の自己点検・評価については、年度末に各自が点検・評価を実施したのちティーチング・ポートフォリオを作成し、教学企画室による点検を経て、大学ホームページで公表している。学科の自己点検・評価については、学科長が年度末に作成している。

また、個々の教員が、ティーチング・ポートフォリオや授業検討票を作成し、学科教員間で共有するなど、日常的に整備することに留意している。このように国文学科では、日常的に、前年度の課題を意識しながら今年度の活動を展開し、新たな課題の解決に向けた取組みを展開している。

自己点検・評価活動に関わる根拠資料の収集状況については、自己点検・評価委員が、定期的に点検し、結果について学科会議にて報告を行ったのち、教授会で報告している。

加えて、自己点検・評価のために、FD委員会と連携し、各学期の終わりに授業アンケートを実施し、その結果をもとに学期ごとの授業検討表を作成することで教育の質の向上、改善に努めている。授業アンケート結果は、大学ホームページにて公開している。

(b) 課題

法人内高等学校（岐阜第一高等学校、岐阜女子高等学校）、および連携協定を締結した彦根翔西館高等学校からも意見聴取していく必要がある。

◎秋学期取り組む事項

何を	誰が
・長浜市連携協議会、長浜北星高等学校からの意見聴取	自己点検・評価委員（ALO）
・自己点検報告書（令和3年度版）	学科教員

【区分 基準 I -C-2 教育の質を保証している。】

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 学習成果を焦点とする査定（アセスメント）の手法を有している。
- (2) 査定の手法を定期的に点検している。
- (3) 教育の向上・充実のための PDCA サイクルを活用している。
- (4) 学校教育法、短期大学設置基準等の関係法令の変更などを確認し、法令を遵守している。

<区分 基準 I -C-2 の現状および課題>

(a) 現状

学習成果の査定については、授業成績、GPA、学生授業アンケート、PROG テスト、就業状況調査、学修行動調査、等を素材とし実施している。

学生授業アンケートについては、全体集計結果、全体考察、各学科の考察をホームページにて公表している。

学習成果の査定については、アセスメント・プランを定め、それに則って行っている。アセスメント・プランは機関レベル（大学全体）、教育課程レベル（各学科）、科目レベル（各授業）の3つのレベルに分けられている。学科の教育課程で定められている学習成果の獲得状況については、教学企画室が査定を行っている。そこでの査定結果は、カリキュラム編成や学生支援計画の策定などに活かされている。個々の授業科目のレベルでは、教員が当該授業の成績や授業アンケートをもとに学習成果の獲得状況を査定し、授業検討票を作成している。授業検討票は学習成果の獲得状況を査定した上で、授業の検証と具体的改善計画を示すものである。シラバスと授業検討票によって、教育の質の向上のためのPDCAサイクルを回すとともに、学生その他に対して授業改善の具体的なアクションを示している。またティーチング・ポートフォリオを用いての各教員による教育の省察、学科における授業改善FDが行われている。

アセスメント・プランについては毎年度点検しており、アセスメント・プランは本学ホームページで公開している。

(b) 課題

アセスメント・プランについては定期的に点検する必要がある。

また、国文学科のカリキュラムや3つのポリシーの変更に伴い、学習成果についても実態にあったかたちで見直しをしなければならない。

◎秋学期取り組む事項

何を	誰が
・ティーチング・ポートフォリオを利用した授業改善FDの実施	学科長・学科教員
・アセスメント・プランの点検・改定	教学企画室
・学生授業アンケート実施（秋学期）	FD委員会
・授業検討票の作成（秋学期）	学科教員

・就業状況調査の実施	キャリア支援委員会
------------	-----------

【基準Ⅱ 教育課程と学生支援】

[テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程]

[区分 基準Ⅱ-A-1 学科・専攻課程ごとの卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を明確に示している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 卒業認定・学位授与の方針は、それぞれの学習成果に対応している。
 - ① 卒業認定・学位授与の方針は、卒業の要件、成績評価の基準、資格取得の要件を明確に示している。
- (2) 卒業認定・学位授与の方針は、社会的・国際的に通用性がある。
- (3) 卒業認定・学位授与の方針を定期的に点検している。

<区分 基準Ⅱ-A-1 の現状および課題>

(a) 現状

学位授与の方針は、学習成果に対応している。教育目標、学位授与の方針、学習成果は身につけるべき能力という点で密接につながるかたちでつくられている。

各授業科目の到達目標は、学科が定める学習成果の獲得を目指して設定されており、成績評価の方法・基準はすべて到達目標と結び付けられている。また、卒業や資格取得にそれらの科目の単位取得が必要なことから、卒業の要件、資格取得の要件にも明確に示されている。

以上の学位授与の方針については、学則において明記されている。また、学生便覧とホームページへの掲載や、オリエンテーション、入試説明会、オープンキャンパス等での説明によって、学内外に表明されている。

国文学科の学位授与の方針の社会的な通用性については、今日の社会で求められている「人間力」や「社会人基礎力」といった力と共通するものであることから、社会的に通用性が認められる。また、建学の精神や教育目的・目標に基づく卒業認定・学位授与の方針を明確にし、アセスメント・プランの下で学習成果の査定を行っていることを内外に表明していることから、国文学科の学位授与の方針は社会的・国際的な通用性がある。

(b) 課題

卒業認定・学位授与の方針については、毎年度点検していく必要がある。

◎秋学期取り組む事項

何を	誰が
・卒業認定・学位授与の方針の検討・点検	学科長、学科教員

[区分 基準Ⅱ-A-2 学科・専攻課程ごとの教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を明確に示している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 教育課程編成・実施の方針は、卒業認定・学位授与の方針に対応している。
- (2) 教育課程編成・実施の方針に従って、教育課程を編成している。
 - ① 短期大学設置基準にのっとり体系的に編成している。
 - ② 学習成果に対応した、授業科目を編成している。
 - ③ 単位の実質化を図り、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、年間又は学期において履修できる単位数の上限を定める努力をしている。
 - ④ 成績評価は学習成果の獲得を短期大学設置基準等にのっとり判定している。
 - ⑤ シラバスに必要な項目（学習成果、授業内容、準備学習の内容、授業時間数、成績評価の方法・基準、教科書・参考書等）を明示している。
 - ⑥ 通信による教育を行う学科・専攻課程の場合には印刷教材等による授業（添削等による指導を含む）、放送授業（添削等による指導を含む）、面接授業又はメディアを利用して行う授業の実施を適切に行っている。
- (3) 教育課程の見直しを定期的に行っている。

<区分 基準Ⅱ-A-2 の現状および課題>

(a) 現状

学科の教育課程は、学位授与の方針に対応している。

シラバスには成績評価の方法・基準を示し、明確化している。シラバスには、授業科目名、担当者名、単位数、年次・開講期、授業形態、授業概要、到達目標、内容、授業計画、授業外学習（準備学習（予習・復習）・必要時間、準備学習の内容）、ディプロマ・ポリシーとの対応、成績評価の方法・基準、教科書、参考書等が明示されている。

学習成果に対応した授業科目を学生が適切に履修するため、CAP 制を設けている。

国文学科の教育課程は、学位授与の方針に対応するため、「基礎力プログラム」等の教養科目や、専門科目、資格等取得のための科目等が設置されており、教育課程は体系的に編成されている。

以上のような体系的な教育課程編成については、カリキュラムマップを用いて、学位授与の方針及び学習成果と個々の授業科目の関連性について示している。

教育課程の見直しは、学科会議を通して定期的に行っている。国文学科の教育課程の見直しについては、カリキュラム担当教員が学科会議で意見聴取のうえ、教務・カリキ

ュラム委員会に提案するといったように、体系的に見直しを行っている。教務・カリキュラム委員会の中に国文学科新課程準備ワーキンググループが設置され、改革支援部改革準備室に新カリキュラム係が配置された。前者は国文学科教員全員と学務課長、改革準備室長からなり、後者は国文学科長が兼務として割り当てられている。このように、国文学科教員のみならず、職員や子ども学科教員との連携の下で教育課程の見直しを行っている。特に今年度は令和４年度的大幅なカリキュラム変更に向け、学科教員と学務課、改革準備室との間で検討を重ねた。

(b) 課題

教育課程の見直し、カリキュラム・ポリシーの点検を行いながら、地域社会のニーズなどを踏まえた教育課程・授業科目の編成を行っていかねばならない。

また現在検討を行っている新しい教育課程について、次年度は運営しつつ検討を図らなければならない。

◎秋学期取り組む事項

何を	誰が
・令和４年度新教育課程の学内承認 および届け出	学科長、学務課長、改革準備室長

[区分 基準Ⅱ-A-3 教育課程は、短期大学設置基準にのっとり、幅広く深い教養を培うよう編成している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 教養教育の内容と実施体制が確立している。
- (2) 教養教育と専門教育との関連が明確である。
- (3) 教養教育の効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。

<区分 基準Ⅱ-A-3 の現状および課題>

(a) 現状

教養教育については、「社会生活を営むうえで必要となる広い教養を身につけるために、教養科目を設置する」という教育課程編成・実施の方針に基づき、「基礎力プログラムⅠ（初年次教育）」「基礎力プログラムⅡ」「基礎力プログラムⅢ」「基礎力プログラムⅣ」「健康とスポーツ」「情報とコンピュータ」「生命と人間」「英語コミュニケーション」「湖北の歴史と民俗文化」「情報とコンピュータ」「くらしと地域」「くらしと政治」「キャリアデザイン」の教養科目が開設されている。今年度入学生対象のカリキュラムでは、従来のカリキュラムにあった教養科目２科目（「健康とスポーツ」、「情報とコンピュータ」）が廃止され、新たに２科目（「ストレスマネジメント」、「情報リテラシー」）が設置された。特に「ストレスマネジメント」の新設は、PROGテストの結果を踏まえ、教育内容を改善するために行われたものである。

教養科目「基礎力プログラムⅠ～Ⅳ」は、２年間を通して行われる必修科目で、大学

での主体的な学習を支えるための初年次教育を含み、学科での学びで獲得した学習成果を体系的に実践するという内容を持つ。教養科目「基礎力プログラムⅠ」が、学習に関する基礎的な知識や態度を身につける初年次教育を担い、専門教育の導入として位置付けられるなど、教養科目と専門科目には関連がある。また、国文学科では、単に文学を学ぶことを目的とせず、文学の学びを通して身につく力をもって、社会で自立できる人材になることを目的としており、専門教育によって、広く人間や社会に関する洞察を深めたり、思考法、表現法などの知的な技法を身につけたりというような、専門教育が教養教育へつながっていくという関連性がある。今年度は、教養教育と専門教育との関連を一層明確にすべく、令和4年度入学から適用される学科のカリキュラム・ポリシーの改定、及びカリキュラム再編のための作業を、主に学務課及び改革準備室と連携しながら進めた。

教養教育の効果については、教養科目の成績評価の結果や PROG テストの結果、また科目レベル、学科レベル、機関レベルの査定結果の中で評価し、カリキュラム・ポリシーやカリキュラムの改善に活用している。

(b) 課題

教養教育を着実にを行い、年度末には学科の専任教員がその効果を評価し、教育改善に努めていくという PDCA の循環を図っていかなければならない。

◎秋学期取り組む事項

何を	誰が
・年度末に、学科レベルで教養教育の効果を評価し、教育改善を図る。	学科教員

[区分 基準Ⅱ-A-4 教育課程は、短期大学設置基準にのっとり、職業又は实际生活に必要な能力を育成するよう編成し、職業教育を実施している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 学科・専攻課程の専門教育と教養教育を主体とする職業への接続を図る職業教育の実施体制が明確である。
- (2) 職業教育の効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。

<区分 基準Ⅱ-A-4 の現状および課題>

(a) 現状

教養科目「基礎力プログラム」は、職業人として基盤ともなる汎用的能力や態度を養うことを目的としている。社会で必要とされる課題発見・解決力、コミュニケーション力、主体性、協調性を育成するための必修科目である。また、教養科目「キャリアデザイン」では、自己理解能力やキャリアプランニング能力を養う。

また、専門科目「文章表現」では、社会で必要とされる文章表現能力を身につけ、「日常書」では、社会で役立つ手書き文書の技術力を培うといった内容を持っている。

さらに、司書の資格に関する専門科目では、司書職に従事するために必要な知識や

技能を身につけるための教育が行われている。

これらの学科の専門教育と教養教育を主体とする職業教育以外に、学生支援担当課キャリアデザイン係が実施する就職支援講座が毎年開設されている。これは、教育課程における職業教育に準ずる位置づけで行われている。また、例年教育課程における職業教育と関連し、就職支援行事として一般企業のインターンシップを行い、長浜市立図書館でのインターンシップも、教育課程の教育と内容を関連して行っている。

このように、学科と学生支援担当課キャリアデザイン係とが連携を図り、社会人として自立するための能力を、学科の教育課程の実施、及び厚生補導を通じて培うことができるような職業教育の実施体制を持っている。特に、担任と学生支援担当課キャリアデザイン係とは、連携を密にして指導にあたっている。

今年度は、令和4年度入学生対象のカリキュラムより、実践キャリア実務士の資格を取得できるようにすることや、一般企業でのインターンシップを単位化することなど、教育の質を向上させるための作業を学務課及び教学企画室と連携して進めた。

職業教育の効果については、上記に挙げた科目の成績評価の結果、PROGテストの結果によって、また、科目レベル、学科レベル、機関レベルの査定結果によって、評価している。毎年、就職先アンケートや卒業生による卒業後アンケートが学生支援担当課キャリアデザイン係によって集計、分析されており、その結果によっても、職業教育の効果の評価している。これらの測定結果は、授業やカリキュラムの改善等に活用している。

(b) 課題

実践キャリア実務士導入やインターンシップの単位化など新カリキュラムを見越して、職業教育の具体的内容を整えていかなければならない。

◎秋学期取り組む事項

何を	誰が
・年度末に、学科レベルで職業教育の効果を主観的に評価し、教育改善を図る。	学科教員
・新たに導入される資格やインターンシップの単位化などの新カリキュラムに関し、必要な作業を進める。	学科教員

[区分 基準Ⅱ-A-5 学科・専攻課程ごとの入学者受入れの方針（アドミSSION・ポリシー）を明確に示している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 入学者受入れの方針は学習成果に対応している。
- (2) 学生募集要項に入学者受入れの方針を明確に示している。
- (3) 入学者受入れの方針は、入学前の学習成果の把握・評価を明確に示している。

- (4) 入学者選抜の方法は、入学者受入れの方針に対応している。
- (5) 高大接続の観点により、多様な選抜についてそれぞれの選考基準を設定して、公正かつ適正に実施している。
- (6) 授業料、その他入学に必要な経費を明示している。
- (7) アドミッション・オフィス等を整備している。
- (8) 受験の問い合わせなどに対して適切に対応している。
- (9) 入学者受入れの方針を高等学校関係者の意見も聴取して定期的に点検している。

<区分 基準Ⅱ-A-5 の現状および課題>

(a) 現状

国文学科の入学者受け入れの方針は、ホームページ、学生便覧、大学案内、募集要項、大学ポートレート等で明示している。また、入試説明会や高校内ガイダンス、オープンキャンパスでの説明においても、各学科の受け入れの方針を、教職員が説明して理解をはかっている。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、WEB を利用しての説明も行っている。

国文学科の入学者受け入れの方針は学習成果に対応している。

多様な選抜についてそれぞれの選考基準を設定して、公正かつ適正に実施している。選考基準については、入学者選抜委員会において毎年見直し・検討を行っている。

入学前の学習成果の把握・評価については、すべての入試において面接・面談を取り入れることで、適正にはかるよう努めている。面接・面談は入学者受け入れの方針に基づいた評価基準により、適正に行っている。入学者選抜の方法は、入学者受け入れの方針に対応している。

入学前に学習しておくことが期待される内容は、オープンキャンパス等において入学前プログラムの内容を説明する際に示している。

入学前プログラムを通した学習成果の把握、評価を行う方策については PROG テストの結果等を用いて査定し、その査定結果にもとづいて、入学前教育の改善・充実を図った。

入学者受入れの方針の点検に関連して、地域社会からの意見を参考にするため、例年は長浜市との包括連携協議会において報告を行っているが、今年度は昨年同様新型コロナウイルス感染症の影響により対面での報告・聴取ができなかったため、今後文書にて報告および意見聴取を行う予定である。また、本学所在地域の高等学校である長浜北星高校からも今後対面ないし書面によりの聴取予定である。

(b) 課題

入学者受け入れの方針については、今後も定期的に点検していく必要がある。

◎秋学期取り組む事項

何を	誰が
----	----

・長浜市からの聴取 ・長浜北星高校からの聴取 ・入学者受け入れの方針の検討・点検	・自己点検評価委員 ・自己点検評価委員 ・学科長・学科教員
--	---

〔区分 基準Ⅱ-A-6 短期大学及び学科・専攻課程の学習成果は明確である。〕

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 学習成果に具体性がある。
- (2) 学習成果は一定期間内で獲得可能である。
- (3) 学習成果は測定可能である。

<区分 基準Ⅱ-A-6 の現状および課題>

(a) 現状

国文学科の学習成果は学位授与の方針と対応しており、学習成果を獲得することで国文学科の学習成果が示す専門的知識、論理的思考力、構想力、実践力、使命感といった知識や技術等を身につけられること、学生は適正に単位を修得し学位を授与され卒業に至ること、免許・資格を取得できることから、学習成果には具体性がある。

学習成果を一定期間で獲得できるように、毎年、設置授業科目、必修・選択の種類及び取得単位数等を検討するとともに、きめ細かい学生支援を行っている。さらに、事前事後の学習時間を確保し学習成果を一定期間内で獲得できるように CAP 制を設け、単位数の上限を定めた。

国文学科の学習成果は、アセスメント・プランに基づき改革支援部教学企画室により査定されている。2017 年度からは PROG を用いた測定も試み、アセスメント・プランについては 2021 年度に改正され、より客観的・多角的な測定が可能となった。

(b) 課題

アセスメント・プランの改正によってより客観的・多角的測定が可能となった学習成果の査定結果を学科内で共有し、教育改善の方向性の検討・実践を継続的に行っていく必要がある。

また、国文学科の養成する人材像および教育目的・目標の変更に伴い、学習成果の見直しを検討する必要がある。

◎秋学期取り組む事項

何を	誰が
・教育改善の方向性の検討・実践	学科教員
・学習成果の見直し	学科教員

〔区分 基準Ⅱ-A-7 学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みをもっている。〕

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) GPA 分布、単位取得率、学位取得率、資格試験や国家試験の合格率、学生の業績の集積（ポートフォリオ）、ルーブリック分布などを活用している。
- (2) 学生調査や学生による自己評価、同窓生への調査、インターンシップや留学などへの参加率、大学編入学率、在籍率、卒業率、就職率などを活用している。
- (3) 学習成果を量的・質的データに基づき評価し、公表している。

<区分 基準Ⅱ-A-7 の現状および課題>

(a) 現状

学習成果については、2018 年度より量的データとして測定可能なものへと改められ、改革支援部教学企画室の査定によってその獲得状況が適切に評価されている。改革支援部教学企画室による査定は、GPA、PROG、漢字検定取得率、就業状況調査、学習行動調査を材料とし、学習成果の獲得状況について測定・分析・評価するものである。国文学科の 2020 年度の査定結果（中間報告）は、2021 年 10 月末までに公表される予定である。

卒業生に対しては卒業後のアンケートを実施し、アンケートでは卒業生の採用後の印象及び在学中に役立った授業・講座・支援等について尋ねている。

測定されたデータはIR資料として蓄積するだけでなく、アセスメント・プランに則って機関レベル、教育課程レベル、科目レベルの3つのレベルにおいて分析・活用され、授業や学生支援の改善計画に反映される。

量的・質的データに基づき評価した学習成果をどのように公表していくかという点については前年度より検討事項として挙げられていたが、現状では学位授与及び資格取得に係る学習成果（学位授与率、資格取得状況）が本学ホームページで公表されている。

(b) 課題

量的・質的データに基づき評価した学習成果の公表のあり方について、今後さらに検討していかなければならない。

◎秋学期取り組む事項

何を	誰が
・ 学習成果の公表のあり方の検討 ・ 就職先への就業状況調査	改革支援部 教学企画室 学生支援担当課キャリアデザイン係、 キャリア支援委員会
・ 卒業生への進路先アンケート	学生支援担当課キャリアデザイン係、 キャリア支援委員会
・ 学習成果の見直し	学科教員

[区分 基準Ⅱ-A-8 学生の卒業後評価への取り組みを行っている。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 卒業生の進路先からの評価を聴取している。
- (2) 聴取した結果を学習成果の点検に活用している。

<区分 基準Ⅱ-A-8 の現状および課題>

(a) 現状

国文学科では、従来進路先へのアンケートを実施してきたが、平成30年度より入試キャリア課が実施し、集計結果は教授会において報告され、ホームページ上にも公開されている。学科としては、その集計結果を踏まえて、科目の編成や、基礎力プログラム・各科目においてグループワークを中心とした課題解決型学習やグループワーク、ボランティア活動を多く取り入れ、協調性、対人コミュニケーション力の涵養に努めてきた。

(b) 課題

進路先アンケートの結果を反映した授業を展開した結果としての学習成果を点検し、それをさらに授業改善に生かしていくというサイクルはできてきているが、実際に学習成果を上げていくことが今後の課題である。

◎秋学期取り組む事項

何を	誰が
・令和2年度卒業生進路先へのアンケートの実施	アンケートの実施：学生支援担当課 キャリアデザイン係 アンケート結果の検討：国文学科教員

[テーマ 基準Ⅱ-B 学生支援]

[区分 基準Ⅱ-B-1 学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 教員は、学習成果の獲得に向けて責任を果たしている。
 - ① シラバスに示した成績評価基準により学習成果の獲得状況を評価している。
 - ② 学習成果の獲得状況を適切に把握している。
 - ③ 学生による授業評価を定期的に受けて、授業改善に活用している。
 - ④ 授業内容について授業担当者間での意思の疎通、協力・調整を図っている。
 - ⑤ 教育目的・目標の達成状況を把握・評価している。
 - ⑥ 学生に対して履修及び卒業に至る指導を行っている。

- (2) 事務職員は、学習成果の獲得に向けて責任を果たしている。
- ① 所属部署の職務を通じて学習成果を認識して、学習成果の獲得に貢献している。
 - ② 所属部署の職務を通じて教育目的・目標の達成状況を把握している。
 - ③ 所属部署の職務を通じて学生に対して履修及び卒業に至る支援を行っている。
 - ④ 学生の成績記録を規程に基づき適切に保管している。
- (3) 短期大学は、学習成果の獲得に向けて施設設備及び技術的資源を有効に活用している。
- ① 図書館又は学習資源センター等の専門的職員は、学生の学習向上のために支援を行っている。
 - ② 教職員は、学生の図書館又は学習資源センター等の利便性を向上させている。
 - ③ 教職員は、学内のコンピュータを授業や大学運営に活用している。
 - ④ 教職員は、学生による学内 LAN 及びコンピュータの利用を促進し、適切に活用し、管理している。
 - ⑤ 教職員は、教育課程及び学生支援を充実させるために、コンピュータ利用技術の向上を図っている。

<区分 基準Ⅱ-B-1 の現状および課題>

(a) 現状

教員は、担当科目の成績評価基準について、シラバス上に学科のDP、科目の到達目標、成績評価方法・基準の関連性を明記し、それに基づいて学習成果の獲得状況を評価している。このように、科目の到達目標と成績評価方法・基準との整合性が、学生に明確に伝わるようにしている。

また、「基礎力プログラム」、「ゼミ」においてルーブリック評価を導入し、具体的な評価基準を示すことによって、学生自身が、学習成果を上げるためにどうすればよいかを理解できるようにしている。

学習成果の獲得状況については、科目担当教員が「授業検討票」において、科目レベルの学習成果の査定表での査定結果、成績評価の結果、授業アンケートの結果に基づき、学習成果の査定を行っている。大学全体における科目レベルの学習成果の査定結果は、FD委員会から教員に周知され、また、学科レベルでの学習成果の査定結果は、今後教学企画室から教員に周知される予定である。このようにして、教員は学習成果の獲得状況を適切に把握している。

教員が科目レベルの学習成果を査定する際の根拠の一つとする授業アンケートは、学期末に、すべての授業で実施されており、教員は学生による授業評価を定期的に受けている。各科目に関するアンケート集計結果は本学ポータルサイトで共有され、教員は担当する授業の評価結果を認識している。こうした学生による授業アンケートの結果は、教員が「授業検討票」に次年度の授業改善と計画を記す際に参考としており、授業改善のために活用している。なお、学科全体の授業アンケート結果を踏まえた教

育改善の方向性については、本学HP上で公開している。

授業担当者間での意思の疎通、協力・調整については、学科会議や非常勤講師を含めた年度当初の教員連絡会等を通してはかられている。特に、学科専任教員が複数で受け持つ「基礎力プログラム」では、学科会議において、担当教員間で意思の疎通、内容の確認等が行われている。今年度は、すべての科目で年度当初から対面授業を行ってきたが、新型コロナウイルスの感染拡大状況を踏まえ、5月中旬から希望する学生には遠隔授業を取り入れて実施することとなった。

教育目的・目標の達成状況については、教員は学習成果の獲得状況に照らし合わせて、適切に把握・評価している。

教員の学生に対する履修及び卒業にいたる指導については、「担任制」により面談を行う他、オフィスアワーを設けて個別相談に応じており、きめ細かい指導及び支援を行っている。また、その情報については、必要に応じて学科会議で情報共有され、科目担当教員の指導に反映されている。

(b) 課題

引き続き、遠隔授業においても学生の学習成果を上げるための方策について、授業担当者間での意思の疎通、協力・調整を図る。

◎秋学期取り組む事項

何を	誰が
学習成果の獲得に向けて、どのように遠隔授業を行っていくか、授業担当者間で情報共有や意見交換を行う。	国文学科教員

[区分 基準Ⅱ-B-2 学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 入学手続者に対し入学までに授業や学生生活についての情報を提供している。
- (2) 入学者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーション等を行っている。
- (3) 学習の動機付けに焦点を合わせた学習の方法や科目の選択のためのガイダンス等を行っている。
- (4) 学生便覧等、学習支援のための印刷物（ウェブサイトを含む）を発行している。
- (5) 基礎学力が不足する学生に対し補習授業等を行っている。
- (6) 学習上の悩みなどの相談にのり、適切な指導助言を行う体制を整備している。
- (7) 通信による教育を行う学科・専攻課程の場合には、添削等による指導の学習支援の体制を整備している。

- (8) 進度の速い学生や優秀な学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っている。
- (9) 留学生の受入れ及び留学生の派遣（長期・短期）を行っている。
- (10) 学習成果の獲得状況の量的・質的データに基づき学習支援方策を点検している。

<区分 基準Ⅱ-B-2 の現状および課題>

(a) 現状

令和 3 年度入試合格者（令和 4 年 4 月入学者）に対しては、入試広報課と連携し、令和 2 年 11 月に入学前教育の案内冊子を配布、2 月には入学予定者に向けた文書を郵送し、課題への取り組みの確認、入学前までに各自の能力を高めていけるようにした。さらに、自己を高めたい入学生に向けてブックリストを作成した。例年実施している、入学後の流れや学生生活を円滑に過ごすことを目的として設けた国文学科入学前登校日や、プレキャンパスセミナーは、コロナ禍のため中止とした。また、入学前教育の一つの成果として、6 月に日本漢字能力検定の受検を実施した。

入学者に対しては、入学後 1 週間オリエンテーション期間を設け、学生便覧を配布し、学習、学生生活など大学生活を自立的に活動できるよう説明を実施している。加えて、担任制を導入し、学生生活や学習状況などの把握及びサポートを行うために定期的に担任面談を実施し、日頃から学生が教員に相談しやすい体制を整えている。

留学生に対しては、グローバルセンターを中心として受け入れ体制を整えている。グローバルセンターには学科教員も配置されており、日常的な学習支援や日本語能力試験の支援などを行っている。但し、令和 3 年度は在籍者がいない状況である。

国文学科の学習成果を量的・質的データとして測定する方法として、面談シート（担任面談を行う際に使用するシート）に学科共通の評価項目を設けての面談、各種アンケート等のデータを測定することで、学習成果を把握するようにしている。加えて、PROG による学習成果の測定および学習時間の調査を実施し、改革支援部教学企画室にて分析を行い、その結果を教授会および学科会議において確認し、担任面談に活用している。

基礎学力が不足する学生に対しては、担任と授業担当者が連携して、学習方法や計画を学生と検討することでサポートしている。また、優秀な学生に対しては、知識や能力の向上に資する書籍や情報を提供している。

令和 3 年度はコロナ禍のため、非対面の授業形態実施に備え、学生全員に Chrome book を貸与している。日頃から Google Classroom を活用し、学生の学習成果の進捗に合わせた課題の設定、授業、学習支援を実施した。また、メールやビデオ会議等で学生の学習面や精神面のサポートを日常的に行った。

(b) 課題

基礎学力不足の学生に対しては、担任・授業担当者を中心として配慮、学習支援を行っているが、優秀な学生への具体的な配慮、学習支援を学科として検討する必要がある。

また、滋賀文教短期大学履修規定の成績評価基準にある下位 4 分の 1 および GPA2.0 未満に該当した学生への指導を教員個人に委ねるだけではなく、組織的なサポート体制を確立することも検討する必要がある。

◎秋学期取り組む事項

何を	誰が
・ 入学前教育案内冊子	学科教員
・ プレキャンパス等の計画	学科教員、入試広報課
・ 基礎学力が不足する学生への補習授業等の検討	学科教員、学務課教務係
・ 優秀な学生に対する学習支援の検討	学科教員、学務課教務係

[区分 基準Ⅱ-B-3 学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的に行っている。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 学生の生活支援のための教職員の組織（学生指導、厚生補導等）を整備している。
- (2) クラブ活動、学園行事、学友会など、学生が主体的に参画する活動が行われるよう支援体制を整えている。
- (3) 学生食堂、売店の設置等、学生のキャンパス・アメニティに配慮している。
- (4) 宿舎が必要な学生に支援（学生寮、宿舎のあっせん等）を行っている。
- (5) 通学のための便宜（通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等）を図っている。
- (6) 奨学金等、学生への経済的支援のための制度を設けている。
- (7) 学生の健康管理、メンタルヘルスケアやカウンセリングの体制を整えている。
- (8) 学生生活に関して学生の意見や要望の聴取に努めている。
- (9) 留学生が在籍する場合、留学生の学習（日本語教育等）及び生活を支援する体制を整えている。
- (10) 社会人学生が在籍する場合、社会人学生の学習を支援する体制を整えている。
- (11) 障がい者の受入れのための施設を整備するなど、障がい者への支援体制を整えている。
- (12) 長期履修生を受入れる体制を整えている。
- (13) 学生の社会的活動（地域活動、地域貢献、ボランティア活動等）に対して積極的に評価している。

<区分 基準Ⅱ-B-3 の現状および課題>

(a) 現状

学生生活に関しては、担任制による担任面談を定期的に行い、学生の意見や要望を聴取している。令和 3 年度はコロナ禍のため、学生の希望に応じてビデオ会議ツールを用いた非対面の面談も行っている。その内容は国文学科教員全員が共有し、また各課とも連携して学生の生活支援を行っている。

[区分 基準Ⅱ-B-4 進路支援を行っている。]

※当該区分に係る自己点検・評価のための観点

- (1) 就職支援のための教職員の組織を整備し、活動している。
- (2) 就職支援のための施設を整備し、学生の就職支援を行っている。
- (3) 就職のための資格取得、就職試験対策等の支援を行っている。
- (4) 学科・専攻課程ごとに卒業時の就職状況を分析・検討し、その結果を学生の就職支援に活用している。
- (5) 進学、留学に対する支援を行っている。

<区分 基準Ⅱ-B-4 の現状および課題>

(a) 現状

学生の就職支援のために、教職員で構成されたキャリア支援委員会が中心となって活動を行っている。具体的には、学生支援担当課キャリアデザイン係が中心となり、学生がいつでも相談しに行きやすいよう、またプライバシーも保護するという観点から、ガラス張りの相談コーナー環境を整えている。加えて、2018 年度には求人検索システム（キャリアタス UC）を導入し、学生に登録指導することで、求人情報がいつでも検索できるような体制を整えた。キャリアデザインセンターのブース内に、従来の紙媒体の求人票も随時掲示を行っている。

学科でも就職担当教員を配置し、学生支援担当課キャリアデザイン係、キャリア支援委員会との連携を図り学生の就職支援に努めている。加えて、定期的に担任面談を行うことで、卒業後の進路や就職活動状況の動向を把握し、学生への就職支援を行っている。また、2 年生に対しては、基礎力プログラムⅢ（補習）の時間に就職活動等支援日を設け、希望者に対して集団面接等を実施した。

司書資格に関しては、長浜市立長浜図書館と連携したインターンシップを継続的に実施しており、司書関係の就職への一助としている。

また、1 年生を対象とした JOB セミナー（業界研究 合同企業説明会）を 2021 年度は 12 月に開催を予定しており、就職活動に向けた就職支援を行っている。公務員試験対策としては、各教科担当教員を配置し学生に周知している。進路・就職支援の SPI 対策講座（筆記試験対策）や面接対策（集団面接・個人面接練習）は 1 年生・2 年生の希望者を対象に随時実施している。

卒業生の就職状況の分析・検討については、学生支援担当課より教授会にて報告され、情報共有を図った。

進学に対する支援については、学生支援担当課キャリアデザイン係にて過去の進学情報や編入学指定校一覧を公開し、学科とも連携しながら個別に志望理由書添削・筆記試験対策・小論文添削・面接練習などを行っている。留学に対する支援も、グローカ

ルセンターに各種プログラム案内を設置し、個別に相談に応じている。

(b) 課題

就職支援については、学生が希望する職種に就けるよう更なるサポート体制の充実を検討していく必要がある。

また、卒業時の就職状況の分析・検討は行っているが、今後はその結果をどのように学生の就職支援に活用できるか、継続して検討していく。

さらに、進学・留学に対する支援については、普段の学科の授業とは別に、どのように学生に対して指導するのが適切なのかを、学生支援担当課キャリアデザイン係・グローバルセンター・学科教員との間で今後さらに検討していかなければならない。

◎秋学期取り組む事項

何を	誰が
・ JOB セミナー（業界研究合同企業説明会）の活用	学生支援担当課キャリアデザイン係
・ 卒業時の就職状況の分析・検討および面談などでの活用	教学企画室教学 IR 係、学科教員
・ 2 年生への就職活動支援（面談等）	学生支援担当課キャリアデザイン係、学科教員
・ 進学、留学に対する支援	学生支援担当課キャリアデザイン係、学科教員、グローバルセンター
・ 図書館インターンシップ	・ 司書課程担当教員